

6. 水はどうやって引くの？ — せき

(1) 川から水を引くために

川から水を引くためには、水路への取り入れ口（取水口）を造ります。

しかし、川は水が多いときもあれば少ないときもあります。また、時とともに水の流れる場所が変わったりもします。

もともと川は低いところを流れているので、そこから水を引くためには、かなり深い水路をつくらなくてはなりません。

どうしたらいいのでしょうか？

(→ 工場用の取水 p111)



水の取り入れ口。ゴミが入らないよう、あみがある。(門のようなものは樋門^{ひもん}といって、堤防の下をくぐる水路。洪水のときとびらを閉める)

川で行われた大きな工事

川に「つながらる」ふだんの暮らし

川に「つながらる」農業

川に「つながらる」漁業や工業



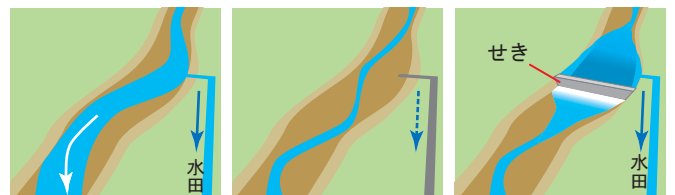
せきをつくることで、川に水をためる。

(2) せき^{※2}によって水位を上げる

そこで、せきを造って川の水をためます。

水の高さ（水位）が上がり水が川幅いっぱいになるため、いつでも水を引きこむことができるようになります。

注意!!…せきがあるところでは、川岸が急で、深くなっています。



川から水田に水を引く。水が少ない時や流れが変わると引けない。せきをつくると、いつでも水を引きやすい。

(3) 頭首工^{とうしゅこう}

このような川などから水を引くための施設（取水施設）の中で、農業用水（や工業用水）を引くためのものを「頭首工」といいます。

十勝川にある千代田堰堤も、頭首工に当たります。

(→ 千代田堰堤 p16)



(上) 地形図^{ちけいず}にのっている栄頭首工^{さかえとうしゅこう}。
(この地図は国土地理院刊行の1/25,000地形図(十勝川温泉)を使用しました)



栄頭首工。長流枝内川(土幌川支流)、音更町・栄。おくに温水池が見える。

付録

※2 せき(堰): 取水のため、また流量や水位を調節するため、川の途中(とちゅう)や湖・池の出口などに流れをさざぎって造られた構造物。

※3 堰堤(えんてい): 貯水・治水・砂防などの目的で、川や谷を横断してつくられる比較的小さなダム。